

江戸川区立学校の新型コロナウイルス感染予防対策についての陳情

(文教委員会付託)

受理番号 第 127 号

受理年月日 令和 4 年 6 月 20 日

付託年月日 令和 4 年 6 月 30 日

陳情者 . . . . .  
. . . . .

陳情原文 新型コロナウイルス感染予防対策におけるマスク着用につきまして、文科省や厚労省が基本的感染対策のため、引き続きの着用を推奨していることはこれまで通りです。また、江戸川区においてもこのウイルスの予防にはマスクの着用が大変重要だとしており、屋外で他者との距離が十分確保できる場合を除き、着用を推奨すると述べられ、併せて、マスクを着用することが難しい方への配慮を求める通知を出し、区民の理解を求めています。

そうした状況にもかかわらず、昨今、一部メディアや、子どもの新型コロナウイルス感染を特段問題視しない保護者の方々などが、三密等感染予防のための然るべき対策がとられていない状況においてまでも、子ども達のマスクを一律に外していきこうという動きがあります。これについては、感染予防の観点から大変憂慮すべき事態であると考えます。

マスクの着用は新型コロナウイルス感染対策において極めて有効であるという科学的根拠があります。マスクの着用は感染を抑え、命を守るための重要な対策です。その他三密の回避や十分な換気、ソーシャルディスタンスを保つこと、手洗い、咳エチケット等と併せて対策を行うことにより、より効果的な感染予防効果が得られるとされています。

子どもと同居する保護者には、特に感染を防ぐべき医療従事者や介護職員もいます。自分の親が仕事柄コロナ感染に特に気をつけているということを理解している子どもは、自ら積極的にマスク着用やソーシャルディスタンス等の感染対策をとっています。まるで、子どもにマスクを着用させるのはかわいそうだというような一部世論もありますが、子ども達の中には、感染状況や感染対策を理解した上で、自分の意思で、自分や家族を守るためにマスクを着用している者も少なくありません。

先日江戸川区の中学校で、複数の子どもが熱中症で倒れ救急搬送されたというニュースがありました。このケースでは、生徒はマスクを着用していなかったということです。熱中症対策としてマスクを外そうなどという趣旨のことをいう方もいますが、マスク着用の有無にかかわらず熱中症は発生します。気温が上がるこれからの季節には、水分補給や休憩、温度や湿度の管理に気を配り、暑い日には長時間の  
(裏面に続く)

激しい運動を避けるなど、従来の熱中症対策を講じていただき、コロナからも熱中症からも子ども達が守られますよう、対策をお願いしたく存じます。

子どものコロナ感染において、確率的に最も危惧されますのはコロナ後遺症（Long Covid）です。最近のNHK Newsには、新型コロナウイルス感染症の急性期以降、感染者のうち、かなりの割合が3ヶ月、1年と時間を経た後に、様々な疾患に苦しめられることとなったとの記事が掲載されました。コロナ後遺症の主な症状としては、思考力の低下（ブレインフォグ）、記憶障害、普通の日常生活を送ることが出来なくなるほどの重いけん怠感、睡眠障害、呼吸困難、筋力の低下、味覚や嗅覚の低下などがあります。また、症状を有する期間も、短くて2ヶ月、長い人では2年以上にわたり苦しんでいるという事例もあります。

過去の世田谷区の調査では、感染した10代、10歳未満の子どものうち、半数以上（55%）に後遺症がみられたことが明らかになりました。

また、オミクロン株が蔓延して以来、小児の重症化件数は増加し、僅かではありますが死亡者も増えました。死亡例は、2022年5月10日時点の厚労省の集計では、10歳未満6例、10代8例です。亡くなられたお子さんの中には、基礎疾患を持たない、10歳未満の児童も複数おられました。非常に強い感染力を持つ、未だその全容が明らかにされていないウイルスです。

現在およそ250万人の子ども感染者のうち、日本でどれほどの子ども達がコロナ後遺症に悩まされているかについて、国や都から具体的な数字は発表されておりませんが、未知の脅威の存在に蓋をして、子どもは罹っても問題ないと断定するには時期尚早であると考えます。

以上により、子ども達が健やかに学びを継続できる学校現場の維持のために、国や文科省の指針に則り、これまでと同様にマスクの適切な着用や黙食を含む感染予防対策を継続していただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

つきましては、下記のとおり陳情いたします。

## 記

- 1 文科省令和4年6月10日 事務連絡「夏季における児童生徒のマスクの着用について」の趣旨に沿い、科学的見地にに基づき、引き続き子ども達に対し適切なマスクの着用を促してください。その際には、マスクの着用が困難な子どもへも配慮しながら、教育現場にて子ども達皆が感染症、熱中症から守られるようご尽力ください。
- 2 教育現場において子どものコロナ感染を軽視せずに、専門家が推奨する、科学的根拠のある感染対策を継続してください。